



Upside Japan
THE TECH INSIDER www.upsidejapan.com

！ホーム！UPSIDEについて！UpsideToday米国版！

！コラム！ビジネスモデル！注目の企業！キーパーソン！業界動向！アジア最新ニュース！ITな暮らし！



注目記事

- ・MSNが音楽配信サービスに参入!
- ・ネットのコンテンツで金は取れるのか?
- ・マイクロソフトがトランスメタと提携!
- ・iモードがアメリカにやってくる!

- ・ハイテク株よ、底の底まで落ちてくれ
- ・略語の山に埋もれたB2Bマーケット



デジタル用語辞典:

検索



Upside Japan / コラム

世界は、栄華と没落を知っている 中村伊知哉@LANTIC [第29回]

2001年4月13日

世界中を旅しながらITとメディアの未来に思いを馳せる中村氏。その足跡を日記風に記した日記コラージュシリーズの第4回目をお届けする(編集部)。

ニューヨークにて: ネットは独占をもたらすか

それにしても一人勝ちの法則というのはまだ生きてるんだろうか。ネットでの競争がセグメント化と独占をもたらすという論理は私には理解できないままで、仮に一人勝ちが起こったとしても、それは毎日ショバを変えて勝者が変わるだけのことであって、法則というほどの持続性を持ってないと思うのだが。

いやむしろ、アメリカ的な競争至上主義はもうくたびれてしまっていて、ネットの本質である**共有や共生**が法則なり理念なりとして早急に定着するだろう。2001年にはP2Pがビジネスのプラットフォームになってきて、はっきりすると思う。

P2P:ピア・ツー・ピア(Pier to Pier)。特定のサーバーを介することなく、クライアント同士が直接データのやり取りをするネットワークモデルのこと。話題の音楽ファイル共有で言えば、ナブスターはサーバーが存在するのでP2Pではなく、グヌーテラがP2Pを実現するツールとなる。ちなみにピアは、棧橋や波止場の意味。

京都にて: ドットコムは期間限定のお笑いネタか?

2年ほど前、ドットコム(.com)とかイー(e)とか付ければ値打ちが上がるってんで、それは今しかできない瞬間的なギャグだと思ったので、やたら名詞にくっつけて日常会話していたことがあった。**ふるあがりドットコムにeナマビール**ぐいっと飲みながら**枝豆ドットコム**はたまらんねえ。みたいいな。

やっぱりギャグで終わったね。いまやドットコムって値段下げるもんねえ。あのころ名前にドットコムつけてった会社は、削りたいけどカッコ悪くて、ってとこも多いんじゃないだろうか。テロリスト的に一括削除してあげる法律でも作るか。

芸能界では一時期、“Japan”を付ければ格好いいという風潮があった。XかX Japanになったからというのが理由らしいが、お笑い芸人のみつままさあきが**みつまJapan**に改名したことは、ごく一部でのみ知られている。

パリにて: ネットより自分のカラダを信用しろ

牛のエサをネット化して安全管理すべし、とはやるボクに、前川氏が言う。結局、安全というのは自分で守るものだ。スーパーの表示を安心できるようにする前に、もういちど、食べ物のニオイをかいで、大丈夫かどうか判断できる肉体を取り戻すしかない。

うむ。フランスもアメリカも、電話代や電気代の支払いは**小切手が主流**だ。自動引き落としは、自分が使った分を先に銀行がカネを取って、結果だけ知らされる仕組みだが、銀行のコンピューターを信用していないから、まずは自分でチェックして小切手で支払う。自己防衛、自己管理。

自動引き落としがないことが、米国であれほどオンラインバンキングが流行る理由の一つ。インターネットで電話代や電気代を振り込むついでに、クイッケンやMSマネーなどの家計簿ソフトに記録できるというメリットがある。クレジットカードの支払いさえも、請求書を見てから金額分の小切手を郵送するという仕組みだ。リポ払い先進国の米国では、当月に払える分だけを支払って、残金は利子をつけて翌月に請求というシステムが普及している。



ボストンにて:酔っ払ってパリカン遊び

近所の酒屋に“ノンアルコール・ワイン”とある。ほほう。30ドルもした。おてんとうさまが柔らかく、今日は少し雪も解けるかもしれない。暖かい部屋でパリカンを分解して、ミシン油がないのでオリーブオイルさしたらどうだろうなどと作業しつつ、そのワインをグビグビやってみると、これがめっぽう旨い。

ところがしばらくするとロレロレになってきたぞ。あれっコレどうみても普通のワインだぞ、だますにしてもヘンなだまし方だなあ、と思ったときすでに遅く1本あいてへ口へ口で、勇気りんりんルリの色、とか歌ってパリカン遊びしているザマを家族に見つかり、とうぶん威厳は戻らない。

健康好きの米国では、ノンシュガーやノンアルコールの飲料が大流行り。どこのスーパーにも売っているのが、ノンアルコールビールの“ルートビア”だ。だが味のほうはちょっとビールっぽくなく、甘味を強くしたドクターペッパーといった感じ。日本国内でも沖縄ではポピュラーな存在で、A&W(エンダー)というファーストフードではお代わり自由のサービスを提供しているところもある。

コロニア:素晴らしき倦怠の街

南米ウルグアイの**コロニア**はポルトガルとの貿易港、栄華と没落を知っている。19世紀にスペインやポルトガルから独立を勝ち取る。20世紀はじめに栄華を極める。第二次世界大戦後に挫折して、軍政と民政を繰り返す。アルゼンチンとウルグアイには共通点が多いが、大国と小国という違いは、人々の歩く姿勢にそこはかとなく表われている気がする。

スペインのコスタデルソルにある白い町、ミハスを思わせる。ここには、肉とワインと太陽と倦怠だけがある。ケータイもインターネットも見当たらない。ビジネスモデルとか、トレンドドラマだとか、そんな大事なものは一切ない。うれしいことだ。

コロニア:正式名はコロニア・デル・サクラメント(Colonia del Sacramento)。ラプラタ川を挟んでアルゼンチンのブエノスアイレスと相対しており、17～19世紀にかけて新大陸の植民地都市として発展を遂げた。'95年には、その街並みがユネスコの世界遺産に登録されている。ちなみにウルグアイは、国民一人当たりの牛肉消費量が世界トップ。国民一人あたり3頭の牛と8等の羊が放牧されている。

東京にて:情報はどこでもドアをくぐっていくか

「どこでもドア研究会」を始めたい。郵政省(現郵政事業庁)の“量子力学的効果の情報通信技術への適用とその将来展望に関する研究会”の**報告書**には、電子や光などの“粒子”の性質を利用して情報を処理・伝送する量子テレポーテーションの可能性が記されている。テレポーテーションが技術的に射程に入るのであれば、準備が必要だ。

これを聞いていたK氏が言う。テレポーテーションできたら、かくれんぼが無効になる。消える魔球がホントに消えてしまう。遊びとスポーツでの使用禁止ガイドラインをまず作る必要があるのではないか。そうかなあ。

テレポーテーションは決して夢物語ではない。米国のロス・アラモス研究所では、量子レベルのテレポートは可能であるとの報告書を発表している。同研究所ではすでに、テレポーテーションを利用した量子コンピューターが試作段階にある。この技術では情報がAからBに移動する際に、いかなる中間点も介することなく直接AからBに移動(テレポート)できるという。

ラスベガスにて:IT振興策には意味がない?

ネットバブルがはじけたというのに好景気が続いているのはなぜだろう。軒並みネット株価95%ダウンなんてことになってもみな平気な顔してるってことは、元々あぶくゼニで買っていたか、事前に売り抜けた人が多いということか。レイオフのニュースもよく聞くが、失業率が極度に低いのは、産業全体からみれば小さい話ということか。

つまりIT産業のキャパはアメリカ経済のごく一部のままで、産業全体がITを飲み込んでいるために、IT産業側がコケようとアメリカはパワフルに走るということか。とすれば、IT産業の成立基盤を失わせるほどの利潤率低下によって産業のIT化を推進することが日本の処方となる。その際、過当競争によるのか、人為的に利潤率を抑えるのか、それを選ぶことが政策だ。

いま二つのことが言えると思う。一つ、日本の採っている“IT産業の振興策”は逆効果だ。二つ、アメリカの好景気はもうそろそろやばい。

現時点で米国の景気は後退し始めているが、ネットバブル崩壊による影響は少ない。むしろ燃料価格の大幅な高騰や、インフレを警戒するFRBの利下げ誘導などにより、消費マインドが下がっていること

が原因だ。

マイアミにて

ニューヨークに巨大なインターネットカフェができたとのニュース。いまさら？ するとコメントイター、アメリカにはニッポンのようにケータイのインターネットがないから、街でネットしたいというニーズが強くて、インターネットカフェが商売として成り立つとのコメント。

おう、そう来たか! まだ家にブロードバンドがないことがネックなんじゃなくて、モバイルか! とうとうアメリカは、勝ち体験に安閑としていると負け組に落ちてしまいそうなことに気がついたな。急に空気が変わってきた。

中村伊知哉 プロフィール



マサチューセッツ工科大学 客員教授
'61年生、京都市出身。京都大学経済学部卒。

在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターで活躍。
'84年、郵政省入省。'93年からパリに駐在し、'95年に帰国後は郵政大臣官房総務課課長補佐を務める。'98年、郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就任。同年、マサチューセッツ工科大学 客員教授に就任。

著書に『インターネット,自由を我等に』(アスキー出版局)などがある。趣味は、ずばり“メディア”。

ホームページ: <http://www.media.mit.edu/ ichiya/jpn.htm>

(C)Hajime Anzai

▶ [中村伊知哉@LANTIC \[連載リスト\] \(http://www.upsidejapan.com/upside/column...\)](http://www.upsidejapan.com/upside/column...)

▶ [韓国学生にせがまれDVD鑑賞\(3月5日\) \(http://www.upsidejapan.com/upside/column...\)](http://www.upsidejapan.com/upside/column...)

▶ [ルーブル美術館のカフェにて想う\(2月19日\) \(http://www.upsidejapan.com/upside/column...\)](http://www.upsidejapan.com/upside/column...)

▶ [憧れのプエノスアイレス\(1月29日\) \(http://www.upsidejapan.com/upside/column...\)](http://www.upsidejapan.com/upside/column...)

▶ [ある一ヵ月間のドタバタ日記\(12月28日\) \(http://www.upsidejapan.com/upside/column...\)](http://www.upsidejapan.com/upside/column...)

▶ [かぞえ直しが続くあいだに\(11月28日\) \(http://www.upsidejapan.com/upside/column...\)](http://www.upsidejapan.com/upside/column...)

(中村伊知哉)

! ASCII24 ! ASCII24 Business Center ! 日刊アスキー Linux ! アスキーデジタル用語辞典 !
! auto-ASCII24 ! Shes.net ! ASCII Job Serve. ! アスキートップ !

! [個人情報の取扱について](#) ! [編集部へのコンタクト\(info@upsidejapan.com\)](mailto:info@upsidejapan.com) ! [広告掲載のご案内](#) !

Copyright (C)1993-2000 Upside Media Inc.
Copyright (C)2000 ASCII Corporation.
All rights reserved.